

# 1 廿日市市の概況

## (1) 歴史的沿革

廿日市市は、もともと佐伯郡に属し、明治、昭和の合併、昭和 63 年 4 月 1 日の市制施行を経て、平成 15 年 3 月 1 日に佐伯町及び吉和村と、平成 17 年 11 月 3 日に大野町及び宮島町と合併した。

廿日市市は、佐伯郡の政治・経済の中心地としての役割を担ってきた歴史的経緯を有し、昭和 40 年代の中頃からは広島市への通勤圏としての位置条件により、沿岸部において大規模な宅地開発が行われた。人口の急激な増加と都市化が進行し、拠点施設の整備や商業施設の立地等都市機能の充実に伴い、広島都市圏西部地域における拠点性が高まっている。内陸部についても、中小規模の住宅開発や工業団地の開発により、人口は増加し、田園住宅地としての性格を強めている。一方、山間部は過疎化・高齢化が進行しているものの、自然環境を生かしたリゾート地としての整備が進んでいる。

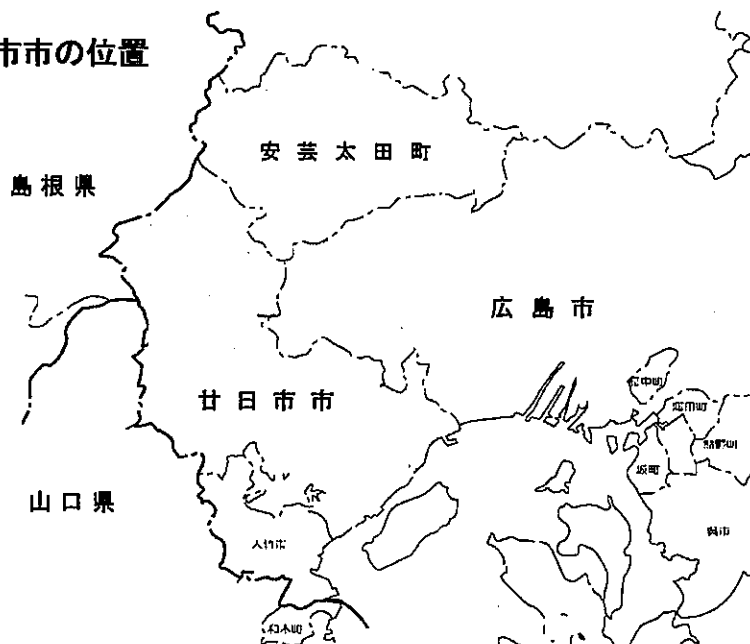
## (2) 位置・地勢

廿日市市は、広島県の西部に位置し、北は島根県及び山県郡、東は広島市、西は山口県に接し、南は瀬戸内海に面している。

面積は 489.42 平方キロメートルで、広島県の総面積の 5.8 パーセントを占める。

山間部は、十方山や冠山などの連峰が西中国山地を形成し、その一部が西中国山地国立公園に指定され、太田川水系沿いに小盆地が形成されている。内陸部は、小瀬川水系沿いに平坦地が帯状に形成されている。沿岸部は、丘陵地帯とその間から流れる可愛川、御手洗川、永慶寺川等により形成された沖積平野や狭あいなデルタ及び海岸部の埋立地から構成される。島しょ部は、周囲約 30 キロメートルでほぼ長方形を成し、島全体が特別史跡及び特別名勝、瀬戸内海国立公園、風致地区に指定され、その中に弥山、駒ヶ林が連なり、急峻な山肌を見せている。

### ■ 廿日市市の位置



### (3) 気 候

島しょ部及び沿岸部は、瀬戸内海式気候に属し、温暖で比較的少雨の過ごしやすい気候で、冬期も積雪はほとんど見られない。

内陸部は、冬期は一部地域で積雪があるなど高地の影響を受け、山間部は、冷涼多雨で豪雪地帯に指定され、夏期は過ごしやすいが、冬期は平地でもかなりの積雪となる。

### (4) 人口・世帯数

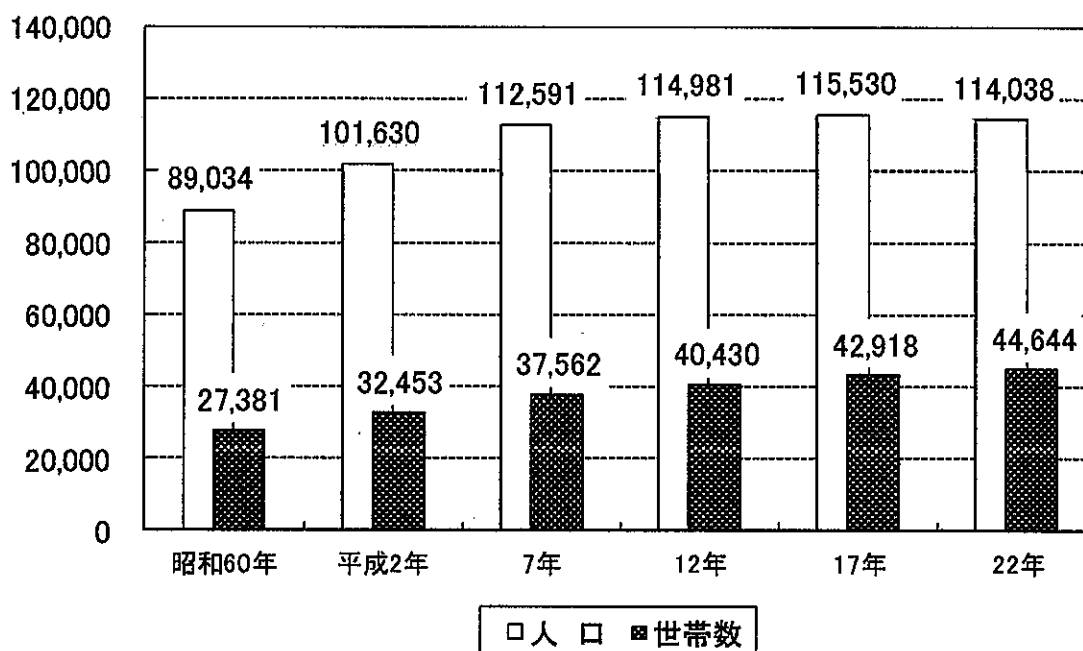
平成 22 年国勢調査における人口は、114,038 人であり、人口減少局面に転じており、山間部や内陸部の一部集落では、過疎化が進行している。

平成 22 年国勢調査における世帯数は、44,644 世帯で、増加傾向が継続している。

1 世帯当たりの人員は 2.55 人で、核家族化が次第に進行しているが、広島県平均 2.41 人と比べると、進行度はやや下回っている。

#### ■ 人口及び世帯数の推移

単位：人、世帯



※ 合併前の旧佐伯町、旧吉和村、旧大野町及び旧宮島町を含む。